



前田 真人さん

(まえだ まなど)  
2020年度SCIX男子ラグビークラブ・キャプテン  
報徳学園高校卒業  
早稲田大学 商学部 進学

—ラグビーの楽しさは?

もちろん勝ったら一番嬉しいんですけどね。  
自分のプレースタイルが自らトライを取りに行くタイプでもなくて、  
ボールに絡みに行くのが僕のスタイルで、得意なプレーがジャッカルなので、  
そこからチームメイトがトライしてくれた時は本当に嬉しいですね。

—SCIXコーチ陣の指導は?

(コーチの) 武藤さんが現役時代フランカーをやってて、  
常にボールに絡むみたいな選手やったって聞いてたので、  
武藤さんにタックルに関する事を教わったら、  
「めっちゃ綺麗に入れるやん!」って感じたんです。  
「相手に顔を近づけたら、自然と肩も出てくるから」みたいなことを言われて。  
それを実際やってみたら 「あ!こんなタックル行けんねんや!」って。

自分の中で腑に落ちたんです。やっぱり一線でされてた方やな、って思いましたね。

バックスのメンバーは、(コーチの) 高木さんがバックス出身なので、  
キックとかサインプレーとか色々アドバイスをもらってるみたいです。

—SCIXでよかったと思う点は?

いろんな方と一緒にラグビーができるんですよね。

土曜日だったら一般的のチームも練習がありますし、中学生も一緒にです。

コーチはスティーラーズでやってたバリバリの人たちですし、

女子チームもありますから。

隣では現役のスティーラーズの練習も見られますし、

たまたま選手が教えにも来てくれますしね。

そういうえば、子どもの頃にスクールで一緒にやった同級生が、  
こないだスティーラーズに入団してそれを知ってびっくりしました。

高橋(陽大)選手は元チームメイトなんです。

向こうは覚えてるかわからないんですけど(笑)。

不思議な繋がりを感じています。

前に、リコーの古賀(由教)選手がSCIXの練習に見えたことがあったんです。

中学時代SCIXラグビー部でやってて、東福岡から早稲田に行った方なんですがね。

「早稲田大学に進学します」って話したら連絡先を交換させてもらって、

いろいろ早稲田に行ってからの事とかも相談させてもらってるんです。

SCIXでもそういう繋がりがあるので、心強いですよね。

—ラグビーを始めたのは?

幼稚園の年長からラグビーを始めました。  
運動が好きなのと、ちっちやい頃から体が大きかったので、  
相撲かラグビーか柔道のどちらかかなって。  
自分でラグビーが一番しっくりきたのと、  
スクールが近くにあったんですね。  
父親がサッカーをやってたこともあって、  
小学校の頃はフットサルチームとラグビーの掛け持ちをしてました。  
フットサルは最終的に小学校で関西2位になって、  
キャプテンもしてたんですけど、  
ラグビーの方がやってて楽しかったので、  
中学からはラグビー一本に絞りました。  
サッカーにするか、ラグビーにするかどちらにするか決める時に、  
いろんな学校に見学に行ったんですけど、  
報徳学園中学校のラグビー部の先生がとてもいい先生だったんですよね。  
それもラグビーを選んだ大きな要因です。

—ラグビーを通して成長できたと思うことは?

ラグビーをやってると試合でも練習でも、しんどい場面があるんですね。  
高校1年の終わりに鹿児島遠征があって、体力的にも精神的にもきつかったんですけど、  
それをなんとか乗りきった時に、限界を超えた感があるというか、  
しんどいことが苦じゃなくなるようになったんですよね。  
元々コツコツ頑張るタイプではあるんですけど、  
ラグビーを通して一段と困難なことでもやり切れる自信がつきました。



—勉学との両立は?

学校の新制度で、自習室みたいなところで現役大学生が教えに来てくれたり、  
個別の授業があったりするので、それを利用して勉強していました。  
高校にいくつかコースはあるんですけど、一応自分のコースの中ではいつも1位でした。  
それもあって5,6年ぶりに早稲田の指定校推薦をもらうことができました。  
SCIXだとテスト期間でも「絶対練習来いよ!」っていう強制は無いので、  
ラグビーをする時はラグビーに集中して、  
勉強する時は練習を休ませてもらって勉強する、っていう感じで  
切り替えて自分のペースでできるのも良かったと思います。

—今後ラグビーは?

腰が悪いのと、ほぼ半年以上ブランクもあるので、プレーするのは高校で一区切りとして、  
大学ではチームスタッフとしてやっていこうと思ってます。  
早稲田大学ラグビー部のマネージャー、もしくはトレーナーといった形で携わる予定です。  
日本一になれる環境があるなら、それをサポートする立場でやっていくのもいいかなって。

—SCIXに入ったのは?

中学時代は報徳学園のラグビー部で、高校からSCIXのラグビー部に入りました。  
報徳学園中学ラグビー部の先輩にも、そういう形でラグビーをやってる先輩が居たので、  
SCIXの存在はその頃から知ってたんですね。  
報徳学園高校にもラグビー部はあるんですけど、  
全国常連校っていうこともあって練習もハードなので、  
学業との両立もしたかったことから高校からはSCIXでラグビーをすることにしました。

—SCIXラグビー部の印象は?

中3の終わりに初めて練習を見に行きました。  
同じ学校の先輩も居ましたし、他の初対面の人もみんな優しくしてくれました。  
中学生の部もあるんですけど、中学チームのメンバーは高校になると、  
常翔学園、大阪桐蔭、東福岡とかもっと上のレベルの高校でやる子たちたので、  
やっぱり上手いな~って思いながら見てましたね。

—コロナパンデミックについては?

本来なら4月5月に大会があって引退なんんですけど、  
結局その大会がなくなってしまったので、  
その区切りが無いまま終わってしまったんですね。  
それは本当に残念です。  
ただ、キャプテンをやっててしんどかったっていうと、  
コロナに関しては特にそんな風に感じたことはなかったです。

—キャプテンとして大変だったことは?

高校2年の夏前、先輩たちが抜けてキャプテンをやり始めた頃がしんどかったです。  
最初は不安しかなかったので。  
中学生メンバーも含めて、みんなの前で堂々と喋ったりするのが難しかったですね。  
とりあえずミスってもいいから自信を持って喋ろう!って、やってきました。  
(コーチの) 武藤さんにも練習内容の相談をしたりしながらやっていって、  
メンバーみんなも付いてくれたので、最後までやってきました。

—SCIXの魅力は?

人工芝もあって、クラブハウスもあって、シャワーもありますし、  
ナイター設備もあるので夜も練習できますし、  
環境は最高だと思います。  
駅からの距離は慣れたらあっという間です。  
メンバーと一緒に歩いてたらすぐです。  
それぞれ目標をしっかり持ってるメンバーたちが集まってるのも  
SCIXの魅力だと思います。  
東大や京大に進学した先輩も居ますし、  
一流企業に就職してる先輩も多いので、  
そういう刺激も受けながらラグビーができるのは大きな魅力だと思います。  
高校2年の時に菅平で行われたKOBELCOカップのエキシビションマッチに  
呼んでもらったのも、SCIXラグビー部だからこそできた経験だと思うので、  
SCIXで良かったなって思ってます。

—進路については?

将来の夢が学校の教員なので、始めは教育大学を目指してたんですけど、  
学校の先生の話を聞いた時に教育大学出身で、教育現場一本で教員になるよりも、  
一般企業でも働けるような大学出身で教員の免許も取れる方が、  
結果的に教員になるにしても良いのかなと思ったので、早稲田大学に決めました。  
教科としても社会科の教員を目指しているので、  
一般企業に勤めてからの方がいろんな経験の話も授業でできるんじゃないかな?っていう思いもあります。  
小学校の先生が社会科を専門にされてる先生だったこともあります、  
その先生の影響が大きいと思います。

—将来は?

将来的に教員になった時はラグビー部の指導もできたらなって思っています。  
中学のラグビー部の先生が、「ラグビーはおじいちゃんになってもできるスポーツ」を  
モットーに指導してたんです。  
ラグビーを嫌いになって欲しくない、ラグビーは楽しいもの、っていうのが教えました。  
とにかくラグビーが楽しいとか、ラグビーに興味を持ってもらえるようにしたいですね。  
ラグビーは試合中に監督が指示を出せない特性もあって、  
自分で考えないといけないスポーツなので、  
自分が指導者になった時には、そういう自分で考えられる人間形成ができると思ってます。